

Citrina 通信

キトリナつうしん
No. 868



昆虫切手展 The 38th Insects on Stamps Exhibition

■第38回昆虫切手展が2025年6月7(土)、8日(日)に、切手の博物館(東京豊島区目白)で、日本郵趣協会昆虫切手研究会の主催で開催された。4月から昆虫切手研究会に入会したこともあり、初日の午前中に行ってきた。会場は会員10数名による30数台の切手展示フレームが並び、蝶だけでなく甲虫類の切手がテーマ別に多数展示され、しげしげと見入ってしまった。

■矢祭の昆虫館開館記念の4種のフレーム切手と矢祭局の記念小型印のデザインをしていただいた、当研究会の澤口尚子さんは、ありがたいことに昆虫館の目玉

のイピタスタイマイを今回の切手展のシンボル種に選んでいただいた。今回の切手展の記念カシエはイピタスタイマイをあしらって、フレーム切手も豊島局の記念小型印もイピタスタイマイを使っている。(写真下中)

■世界の珍種という、オナシカラスやホメロスアゲハ、フトオアゲハなどを思い浮かべるが、イピタスタイマイの話題性は今年の昆虫館のオープンで最高潮だと考えると、澤口さんの今回の切手展への選択に、虫の里関係者として感謝申し上げる。(下の写真で奥本さんに説明するのが澤口さん)



■先日3月23日の昆虫館のプレオープンの時のウスバシロチョウをデザインした矢祭局の令和7年3月21日付け記念小型印が押された澤口さん作成のウスバシロチョウのマキシマムカードも入手することができた。(写真下右)

■当日は当研究会の名誉会員の奥本大三郎氏が見えて、熱心に切手をご覧になられながら澤口さん他の会員の皆さんの説明に耳を傾けておられた(写真上右)。また、様々な会に所属する蝶仲間が次々に来場して、

森晋一郎氏の営業力にあらためて感心した(写真下左)。

■虫の里福島奥久慈設立の会理事でもある森晋一郎氏は昆虫館のフレーム切手などの自作のマキシマカード他を展示して、昆虫館のPRをしていただいた。今後とも昆虫切手研究会と虫の里昆虫館で協力体制を続けてゆきたいと思う。

(2025年6月10日/寺章夫)



ファール昆虫館訪問 Visit to the Fabre Insectarium

奥 本大三郎さん館長の「虫の詩人の館・ファール昆虫館」(東京都文京区)に、2025年5月18日(日)に、虫の里の関係者4人の矢崎潤子さん、石射正曜さん、森晋一郎さんと寺で訪問してきた。

■文京区千駄木の閑静な住宅地の中に忽然と、空に向かって緩やかにカーブした銀色の外壁の小さなビルが目に入る(写真上左)。地下1階、地上4階建ての、フランス人建築家が設計したお洒落な建物だ。奥本さんが住まわれていた敷地を提供して、NPO法人「日本アンリファール会」が運営する昆虫館だ。

■地下にはファールの生家を再現した部屋が設えてあり、奥本さんが買い集めたファールの時代の家具や調度品が置かれていて、当時の質素な生活ぶりがうかがえる。1階エントランスには虫グッズやチョウの標本、奥本さんの書籍類が所狭しと並び、虫好きの子供達にはワクワクするスペースになっている(写真上2枚)。2階は標本収蔵庫で、3階に集会室とその脇に奥本さんの書斎机がある。奥本さんは殆どの時間、ここでPCを使って執筆をされているとのことだった。

■訪れた日は丁度「館野鴻(たてのひろし 1968～) 原画展」をやっていて、昆虫の体内が透けて見えるような細密画が多数展示されていた。



■私たち4人が伺った大きな目的は、奥本さんに虫の里昆虫館の名誉館長になっていただき、昆虫館の看板の揮毫をお願いすることだった。そしてできれば11月2日に予定している昆虫館のグランドオープンに、ご臨席いただくことだった。(写真下左)

■名誉館長と昆虫館看板の揮毫については何とかお引き受け頂いたが、ご臨席は体調がおもわしくなく難しいとお話だった。しかし体調が優れば是非ともいらしていただけるように期待して退席した。

■我々が歓談している最中に、虫好きの小学生3人が飛び込みでインタビューに来て、いくつか質問をしていた(写真下右)。奥本さんはわかりやすく丁寧に、小学生といえどもきちんと本心を話されていて、傍で聴いていて奥本さんの子供たちに対する優しいお人柄を垣間見ることができた。小学生は、折り紙のカブトムシをお土産に持ってきていて、奥本さんはそれを手にして記念撮影に応じていた。

(2025年6月13日/寺章夫)



グランドオープンに向けて Towards the Grand Opening

工事関係者との打合せを2025年6月9、10日と昆虫館で、虫の里理事の寺と森さん、石射さんで行った。母屋を民泊として宿泊客を受け入れるための改修工事の見積もりを集めたところ、工事に使える手持ち資金の倍近くの額がでてしまい、大幅な予定変更が必要となった。何とか手持ち資金内でグランドオープンを迎えられるよう、工事関係者で知恵を出し合い、協議をした。

■まずはGオープンのための母屋のエントランス回りの改修工事をやり、資金が出来たところで民泊のための水場周りの改修工事をと考えたが、Gオープン時に展示をするためには民泊が必須とのことで、まずは民泊の営業許可が下りる最低限の改修計画とすることにした。

■土蔵2階の収蔵庫に納める標本ダンス20本が完成して搬入が終わっていて、取りあえずドイツ箱800箱分の受け入れが可能となった(写真上左)。また大口の寄贈予定

の方には標本ダンスも一緒に納めていただける方も多く、当分はこの標本ダンスで足りることがわかった。

■昔から母屋の畳を納めている直ぐ近くの保科畳店の三代目保科修一さんに来てもらって打合せをした。所々の畳を持ち上げて畳床の状態や下の板張りを見てもらったところ、畳床の作り方を見て、「このやり方は手作業で、うちの祖父の仕事だと思います」とのこと。畳屋が消えてゆく昨今、こうして脈々と矢祭の畳を維持してくれることを心強く思った。(写真下右)

■今年の2月までの土蔵の温湿度記録は驚くほど安定していて正倉院と同じ性能があることがわかったが、2月以降に改修工事及び昆虫館として扉を開いていたために、温湿度の乱高下が著しかった。そこで、2階収蔵庫の空気を1階と遮断するために、階段部分に水平引き戸を付けることとして、カナザワ建具店社長と打合せをした。



■既に五十嵐邁「世界のアゲハチョウ」の寄贈をいただき、今後、昆虫関係の図書の寄贈も増えてくると思っていた矢先、昆虫館に町立「矢祭もったいない図書館」の分館として、子供対向けの虫の本棚が設置されていた(写真上中)。早速、館長の緑川宏子氏に挨拶に行った／図書館の入り口は小さいが、中に入ってその天井が高く明るく整然とした開架空間に驚いた。武道館を図書館として再利用したそう(写真上右)／「矢祭もったいない図書館」として全国に本の寄贈を募ったところ、目標の20万冊が50万冊を超え、隣接して書庫棟を増設したそうで、立派なのに驚いた／私は子供用の虫の本6冊を見本に持って行ったが、図書館に寄贈した形にして、昆虫館に置いて本館の蔵書として管理してもらえとのこと／矢祭図書館のご協力で、

昆虫館での書籍類の有効活用ができる仕組みができたので、標本だけでなく書籍類の寄贈も受けたいと思う。

■当日は小原夫妻が矢祭町の昆虫相調査に来て、ジャコウアゲハやクジャクチョウ、クロノマチョウなど多種を記録したとの事。その足で昆虫館に立ち寄って、大きな蝶額2枚(写真下左)と虫の生態ジオラマ5個、チョウ標本の商品見本3点を提供してくれた。

■土蔵1階のエントランス回りの売店、図書コーナー、観察コーナーの配置方針が決まり、古い木製家具を使うこととした。まずは地元の方々からの提供をお願いした。この昆虫館に寄せる町の行政や地域の皆さんの熱意に驚くとともに、秋のグランドオープンが楽しみになってきた。

(寺章夫／2025年6月12日)

奥久慈 食べ録 ②



さがわ食堂

矢祭町東館館本 40

■地元の矢崎潤子さん(一般社団法人ニワトコ代表理事)お勧めの山田屋食堂と並ぶ矢祭の大衆食堂で、一押しは「タンメン」とのことで、迷わず注文した。

■出てきたどんぶりが巨大で重いのに少々たじろぐ。スープはサッパリ系で美味い。太めのちぢれ麺はのど越しがいい。これはいける。このところ少食傾向のテラ爺でも、味わっているうちに完食してしまった。

■次は、メニューで一番高い豚カツ定食(1,200円)を注文。大将が一人で作っているのに手際がいいせいか、出てくるのが早い。揚げたてでコロモさくさくのトンカツは肉厚で美味い。付け合わせは洋風で、スパゲティーナポリタンやマカロニサラダがドーンと付いてくる。

■どれもボリュームがあるので、お客さんはナツパ服を着た職人さん風の若者が多い。それにご飯を大盛りをしたり、ラーメンを付けたりしているのは、身体を使う仕事のカロリー源なのだろう。

■このGWの最終日に行ったら昼前だと言うのに10数台分の駐車場が最後の1台で、お店は超満員で奥の座敷に通された。長いこと待つのを覚悟して、かつ丼を頼んだら、意外にもいつものように直ぐに出てきたのには驚いた。大きな丼ぶりから具がはみ出るボリュームたっぷりだったが、美味しいのでテラ爺はまたもやべろりと食べてしまった。矢祭出張でいつも体重が1~2kg増えてしまうのは仕方ない。



らーめん蓮の里

矢祭町小田川字春田 12-3

■昆虫館から東館駅に向かって歩いて10分ほどの、国道349号線のカーブ交差点に面した新しいお店。若夫婦2人でやっていて、カウンター席と小上りの座敷があるラーメン専門店。

■醤油、味噌、辛味噌の3種があるが、正道の醤油ラーメンに味玉をのせた一番シンプルなのを注文(850円)。スープは家系のとんこつこってりだが、見た目ほどでなく、さっぱり味だ。麺は細めで、チャーシューは柔らかく、メンマは細く刻んであって、どれも年寄り向けだ。さらし刻みタマネギとおろしにんにくが置いてあって、タマネギをどさっと乗せるとサッパリして味変になる。

■同席の森さんは「特製油そば」を頼んでいたが、キムチが乗っていて、味変用に酢とマヨネーズがついていた。マヨネーズ好きのテラ爺は今回はこれを食べてみよう。



(寺章夫)

タイトル画像: 7.3.21の矢祭局の記念小型印が押されたウスバシロチョウのフレーム切手(ともに澤口尚子氏のデザイン)